

薬学未来プラン “薬進”

名古屋市立大学大学院薬学研究科・薬学部

薬学研究科の進む道

名古屋市立大学薬学部は、130年余の歴史と伝統をもち、これまでに薬剤師や創薬研究者をはじめ多くの優れた人材を輩出してきました。

平成18年度から薬学教育制度に6年制が導入されたのを契機に、より一層質の高い薬剤師教育を行なうとともに、4年制の学科を維持し、引き続き優れた創薬研究者教育にも力をいれてきました。さらに大学院においても、6年制、4年制それぞれの学科に接続した大学院の各専攻において、臨床研究と創薬研究を行なっており、平成25年度には、名古屋工業大学とともに、日本初の薬と工の共同大学院「共同ナノメディシン科学専攻」を設置しました。今後はさらに異分野との共同研究や融合研究を、創薬基盤科学研究所を核として推進し、世界最先端レベルの研究成果を発信し、医療に貢献いたします。

一方、21世紀にはいり、急速に進む少子高齢化、医薬品の多様化、医療費の高騰、社会のグローバル化と地域社会の変容、地球環境の変化などにより、薬学が取り組むべき課題も質・量ともに急拡大しています。このような課題は、一研究科の取り組みによって解決できるものではなく、異なる専門領域、異なる専門職種、異なる地域との連携を密にして、多角的かつ迅速に取り組む必要があります。

薬学は、様々な基礎科学を根にもつ学問であり、多種多様な領域と連携して教育・研究を行なうことで、特色ある花と実と種子をつけることのできるポテンシャルと柔軟性をもった学問です。私たちは、この薬学の特徴を生かし、その教育と研究の成果を、世界に、地域に、そして人に届け、人類の健康と福祉の発展に貢献いたします。

【1】優れた研究を世界に発信します

- 創薬基盤科学研究所（創薬研）の拡充とこれを核とした戦略的研究展開と外部資金獲得【(i)－(ii)】
 - ・部門構成による組織の拡大再編
シーズ探索部門、創薬支援合成部門、薬効・安全性評価部門、薬物動態・DDS部門、臨床試験研究部門
 - ・全学レベルの共同研究の促進
 - ・共同利用・共同研究拠点化（共同利用研究施設への認定を目指す）
 - ・施設の改修および最先端機器の全学的かつ計画的導入
 - ・海外研究者の招聘による国際的創薬研究ネットワークの形成
（各部門に特任教授、国際シンポジウムの開催、若手教員・スーパー院生の短期留学等）
 - ・専任教員の配置：平成27年度に1人配置済
 - ・基盤研ホームページの作成
- 医薬共同研究推進室および産学連携研究推進室の設置【(ii)】
 - ・シーズとニーズの把握と発信
 - ・URA、医薬看システムで連携した研究推進と外部資金獲得及び産学連携研究の拡大

Ⅲ 研究

(1) 全学的な研究推進機関の設置 (2) 戦略的な外部資金の獲得

(4) 共用研究施設・設備の充実

Ⅷ 業務運営の改善 (2) 本学の知名度向上

【2】他機関との連携を拡大・強化し、優れた薬剤師教育・研究者養成を行います

- 全学教養教育の充実への協力【(i)－(ii)】
- 大学院医薬学総合研究科の設立【(ii)－(iii)】
 - ・研究および外部資金獲得における連携
 - ・大学院講義の連携
- 医療経済マネジメントコースへの参画【(ii)】
- 名古屋工業大学との連携強化【(i)－(ii)】
 - ・平成25年に共同ナノメディシン科学専攻の設立、学生・教員の交流拡大
- PMDAとの包括連携協定の締結に基づく教育プログラムの開発【(i)－(ii)】
 - ・平成25年より連携大学院、インターンシッププログラムの導入
 - ・アジアにおけるレギュラトリーサイエンスの教育拠点の形成
- 高度薬剤師養成にむけた連携【(i)－(ii)】
 - ・全国レベル、東海地区レベル（東海薬学教育コンソーシアム）、県レベル（市大病院、東部・西部医療センター、地元薬局）での連携強化による高度薬剤師教育体制の確立
- 名古屋市衛生研究所との連携大学院の設立【(i)】

I 総論 (8)他大学との連携強化

II 教育 (2)学部・研究科、大学間連携プログラムの推進

【3】学生数と教員数を増やし、教育と研究力を高めます

- 大学院（医療機能薬学専攻）学生定員増（2人）【(i)】
- 学部学生及び教員定員数の増加【(ii)】
- 上位職（教授・准教授）への女性登用（2－3人）【(ii)】
- 大学院生・留学生の獲得【(i)－(ii)】
 - ・国費による留学生数の増大
 - ・平成26年度より秋入学制度・英語講義を導入、27年より英文公募要項
- 特任助教（病院薬剤部）の採用（10人）【(i)】
 - ・平成27年度より募集と採用を開始
- 欠員活用による教員の時限配置【(i)－】
 - ・新任教授の研究室や学位取得女学生の特任助教採用
- 大学院博士課程の学生への経済支援の強化【(i)－(ii)】

Ⅱ 教育 (2)学生数・教員数の増加

Ⅷ業務運営の改善 (5)女性教職員の積極的な採用・登用

【4】大学院の国際化の拡大・深化を行ないます

- 海外拠点の設置【(i)－(ii)】
 - ・名市大全学との窓口としてハジェテペ大学に事務局を設置
- 欠員活用による外国人教員の時限付き採用【(i)－(ii)】
- 海外学生の短期インターンシップ（ショートステイ）プログラム実施【(i)】
 - ・瀋陽薬科大、サントトーマス大から実績、大学院留学生の獲得
- レギュラトリーサイエンス教育のアジアへの展開【(ii)】

V 国際化 (1)グローバル化アクションプランの策定

【5】高大接続のパイプを拡充します

- 推薦入試への地元高校卒の導入【(i)－(ii)】
- 高校への出張講義・研究指導による学会発表プログラムの導入【(i)－(ii)】
 - ・ 地元高校での研究を指導、学会発表、単位化
- ジュニアカミングデーの実施【(i)－(ii)】
 - ・ 高校の後輩、進路指導教員、恩師との交流

【6】地域貢献を充実させます

- 「なごやかモデル」の推進【(ii)】
 - ・ 名古屋市やUR等と協力の上、事業の継続実施と施設活用を検討
- 学び直し教育の充実【(i)－(ii)】
 - ・ 名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センターによる薬剤師学び直し講座の充実
 - ・ 未就業薬剤師のための研修セミナーの開催や寄附講座の設置
- 薬用植物園を利用した地域貢献【(i)－(ii)】

IV 社会貢献

- (2)研究成果の社会への還元、(3)地域と育む未来医療人「なごやかモデル」事業の成功
- (6)高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成
- (8)地域に開かれた大学

VIII 業務運営の改善 (2)本学の知名度向上

【7】愛校心の醸成と寄付金の獲得を目指します

- ペアレンツカミングデー（在校生の家族）の実施【(ii)】
- ホームカミングデー（卒業生）の実施【(ii)】
- 同窓生意識の共有と同窓会との連携強化【(ii)】

I 総論 (1)愛校心の醸成、開学70周年（2020年）に向けた気運向上
VII大学経営・財務内容の改善 (3)資産の有効活用と自己収入の確保

【8】キャンパス整備を行ないます

- コンビニエンスストア併設宿泊施設の設置【(ii)－(iii)】
 - ・全学の体制と整合性をとりながら、薬学キャンパス敷地内に共同研究者や海外からのショートステイのための宿泊施設を検討
- キャンパスおよび薬用植物園の整備と見える化【(ii)－(iii)】
 - ・セキュリティ確保の上、キャンパス整備（案内板やサイン）を行い、時空間的部分開放

VII大学経営・財務内容の改善 (3)資産の有効活用と自己収入の確保

【9】薬学未来プラン評価委員会を設置します

- 薬学未来プランの検証のための外部委員を含む評価委員会の設置【(i)－(ii)】